

# 京の2NPO 健全運営認証

健全運営のNPO(民間非営利団体)に対する「お墨付き」となる「グッドギビングマーク認証」が京都の2団体に付与された。フードバンク活動に取り組む「セカンドハーベスト京都」(京都市伏見区)と、市民活動団体の支援組織「きょうとNPOセンター」(下京区)で、民間唯一の評価認証機関による審査を通過した府内初のケース。両団体は「企業や個人に安心感を届け、寄付を得たい」としている。

公益財団法人「日本非営利組織評価センター」(東京都)が昨年始めた制度で、NPOの信頼性を「見える化」するのが狙い。反社会的勢力との

関係を遮断している▽役員が法令違反をしていない▽税金を滞納していない▽といった14項目を、団体から提供された資料や独自調査、面談に基づ



グッドギビングマーク認証を付与される、京都府内を拠点とする団体の関係者たち(左側) 京都市下京区

## 府内初 「安心感届け、寄付得たい」

いて審査する。

同法人によると、認証はこれまで、都内を中心に、公益活動を柱とした大規模な認定NPO法人など計31団体へ付与した。4月時点で企業や財団など計28団体が、社会貢献として助成金を渡す際などに参考材料として活用しているという。

京都の2団体は今年に入ってから同時に認証を受けた。

セカンドハーベスト京都は、個人や企業から託された食料を子ども食堂や困窮世帯支援の活動団体に渡している。使い道が限定された助成金が現在の主な資金源で、人件費などを含めて使途が幅広い寄付収入を増やすために、認証を申請した。同団体は「活動の透明性をアピールできる」と話す。

きょうとNPOセンターは、市民活動団体への支援に携わっている。平尾剛之常務理事は「NPOへの信頼の輪を広げていきたい」と意気込み、「小規模で寄付が集まりづらい団体にも光が当たる。社会との橋渡しになる制度になれば」と認証の広がりを期待する。

(本田貴信)